



若竹だより



【巻頭言】

若竹三本の矢

—羊年に相応しい一年を—

園長 野田大燈

明けましておめでとうございます。

本年も変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

今年は一ひつじ年ですが、羊は「家族の安泰・世界平和」の象徴とされています。

児童施設である若竹学園としましては、学園生の心の平安とご家族の安定を今年の課題として取り組みたいと願っております。

そのための手段として3つのことに取り組むこととしました。

① 職員の「一人一芸」的関わり

得てして保育士・指導員の職員は衣類管理や入浴・食事等の介助を通して園生の身の回りの世話をを行うもので、心のケアは心理職の担当と思いがちですが、「生活指導員こそ園生との深い関わりの中での心理ケアを」と言う事で、陶芸・釣り・スポーツ等職員の最も得意とする分野を以て更に関わりを深めたいと念じております。

② 遍路小屋でのお接待

昨年は四国霊場開創 1200 年と言う事もあり、法人の社会貢献事業として遍路小屋建設の基金を拠出して頂いて完成しました。その遍路小屋を拠点として日曜日の午後

に園生数名がハーブティーとミカンやお菓子などをお接待させて頂いています。

人間不信や対人関係の苦手な園生たちも、お遍路さんの笑顔や感謝の言葉に触れて「してあげること」の喜びを体得して徐々に積極的となり外人遍路さんに英語で話しかけるようなこともありました。

お接待体験が心理治療の一環を担っています。

③ 鍼灸師による「不定愁訴」治療

若竹学園は心理治療施設として心の治療を心理士たちが行っていますが、園生と関わっていて感じたことがあります。

それは園生達の「肩こり」です。心のストレスが身体に現れているのです。

幸いにも四国医療専門学校の支援を受けて昨年末より鍼灸の専門家が毎週一度園生の治療を行って下さっています。

鍼灸の治療データは学校側が行い、予後学園の担当職員がチェックを行っています。

まだ5～6回の治療ですが、明らかに園生の状況が変化して学園全体が穏やかになって来ているように感じます。

今年「一人一芸的関わり」「お接待」「身心治療」の3つを『若竹三本の矢』として一ひつじ年に相応しい穏やかな学園にしておもてなしの出来る若竹学園でありたいと努力して参りますのでご支援の程お願い申し上げます

—了—

野外炊飯

11 月 24 日に防災訓練として、学園に備蓄してある食材を利用して、実際に非常時に自力で食事が作れるよう練習をしました。メニューは、さんまの缶詰を利用したチーズのせかば焼き丼、マッシュポテト、コーンスープ。毎年、数回の野外炊飯を経験しているだけあり火起こしはお手のものでした。それぞれ役割分担をして手際よく作ることが出来ました。

いつ起こるか分からない非常時に向けてこれからも練習を続けていきたいと思えます。



壁紙貼り換えボランティア

香川県室内装飾事業協同組合の方が、ボランティアで来園されました。



学園の壁を真っ白に貼り換えて頂きました。外出から帰ってきた子ども達は、館内が明るくなっていたことに驚きを隠せませんでした。



ありがとうございました。

遍路小屋接待

その日は、風が強く寒さを堪えながら子ども達がお接待をしました。お遍路さんを見ると「頑張っ。」「気をつけて。」と声をかけ参拝を終えた人たちを「どうぞ」とテントに招き入れました。猪鍋、ハーブティー、みかん、和三盆等を出してお接待しました。

A ちゃんは「お遍路さんが喜んでくれて嬉しかった」と微笑みながら話していました。12 月 21 日「四国八十八ヶ所おもてなし大使」に任命されました。これからも皆さんに喜んで頂けるようお接待をしていきたいと思えます。



かまど作り

12 月 14 日、21 日に学園の緊急避難所で非常時に食事作りができるようになるためのかまどを作りました。中学生男子の希望者と一緒にモルタルを練ってセメントを作り、ブロックの穴に流し込み、しっかりしたものを作りました。子ども達も作り方を教えてもらいながら夢中になって作業をしていました。これからの野外炊飯でこのかまどを使って食事作りが出来るのを楽しみにしています。



若竹学級だより

寒くて熱い冬がやって来ました

標高 400m、五色台の中腹に位置する若竹学園は、一足先に真冬を迎えています。喝破道場にある池には厚さ 10mm ほどの氷がはり、学園生は珍しそうに分厚い氷を手にしてはその冷たさを味わっています。また、山道を歩くこと十数分でたどり着けるプチ秘境「日見ずの滝」には、無数のつららが垂れ下がり圧巻の光景を私たちは見ることができます。



そんな寒さの中、今月も若竹学級で行った様々な学習と体験活動を通して、子どもたちのがんばりと心の豊かさにふれることができました。

授業の充実

中学校では、3年生だけでなく2年生も自ら志願して放課後の補習に取り組んでいます。授業への取り組みにも目を見張ることがあり、基礎学力が充実していることがうかがわれます。

2年生では、「気になる人物について調べて新聞にまとめよう」という単元で、自分の好きなアーティストや歴史的な事象を調べて、イラストや図表を交えてまとめることができました。互いにそれを見ながら、それぞれのよさを認め合うことができました。言語活動の充実が求められている昨今、若竹学級の生徒もがんばっています。



平和学習

若竹学級では、本年度以下のように繰り返し戦争について考える平和学習を実施しました。

6月…DVD「月光の夏」視聴

出撃前の特攻隊員が、ピアノを弾いて何を伝えたかったかを考えました。

7月…高松空襲について考える

高松も、空襲によって広範囲が焼け野原になり、多くの方が亡くなったことを知りました。戦争が決して遠いところで起こっているのではないことを学びました。

9月…国語教材「挨拶—原爆の写真によせて」

作者が、平和だと思いこんでいる私たちに對して擬人法や倒置法などをつかって警鐘を鳴らしていること知りました。

12月…DVD「永遠の0」視聴

・「生きるための努力をしろ」というせりふが印象に残りました。生まれた時代によって、こうも考えることが違うのかと思いました。

・「生」と「死」、今は生きることが当たり前の世界なのに、第2次世界大戦中、人の死は、国や天皇のために簡単に捨てるものだったと知り驚きました。その中で、何を言われようと自分の意志で「死」より「生」を選んでいたのですごかったです。



真珠湾攻撃の日、知覧から飛び立った特攻隊員が書いた遺書を読んだり、DVDを視聴したりしながら「命」の尊さについて考えました。

クリスマス

皆でクリスマスケーキ作りをしました。
生クリームを泡立てるのに苦戦していました。



「お店に売っているケーキみたいでおいしい」と喜んでいました。



25 日朝、サンタさんからのプレゼントが届いており、朝から学園は子どもたちの喜びの声で溢れていました。午後からはクリスマス会をしました。イオンモール様から黄色いレシートキャンペーンの支援活動の一環で特別なプレゼントを頂きました。ありがとうございました。



～御寄附ありがとうございました～

- | | |
|----------------|------------|
| 西本 雅生様 | 現金 |
| 石原 真生様 | お菓子 |
| 四国新聞社様 | カーペット |
| (有)四国ワークス | |
| 岡野光男様 | お菓子 |
| 香川県室内装飾事業協同組合様 | 壁紙 |
| 高松イオン様 | DVD・DVD 機器 |

12月行事

- 13 日 遍路小屋接待
- 14 日 かまど作り①
- 21 日 遍路小屋接待・かまど作り②
- 24 日 クリスマスケーキ作り
- 25 日 クリスマス会

在籍人数 平成 26 年 12 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男子	小学生	4	3	7
	中学生	5	5	10
	その他	0	0	0
	計	9	8	17
女子	小学生	2	1	3
	中学生	4	1	5
	その他	0	0	0
	計	6	2	8
合計		15	10	25

第 251 号発行

編集後記

今年の 12 月は例年の冬よりも寒く、雪が降ったりつららができたりして、子ども達は喜んでいきます。来年からも子ども達の様子を伝えていきたいと思います。

セラピスト 内田 奏

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
 TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
 ホームページ <http://4on.or.jp>
 Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員
 発行責任者 野田 大燈